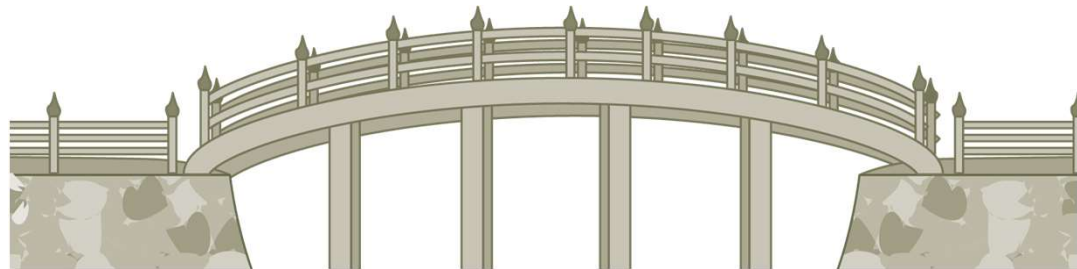


石薬師の思案橋 (南町橋)

徳川家康「伊賀越え」逃避行の通り道



家康は、天正10(1582)年3月に武田を滅ぼした。
その功績から、信長から安土城で接待を受けた。

ここから、伊賀越えの物語
の概要がみられるよ



[【漫画】徳川家康、生涯最悪の3日間
～伊賀越え～【日本史マンガ動画】 -
YouTube](https://www.youtube.com/watch?v=Suwsc0QSj-M)

<https://www.youtube.com/watch?v=Suwsc0QSj-M>



家康ご一行はこんな感じで
少人数でゆっくり見物したり、買い物したり…

5月15日 から 5月20日	安土城（滋賀県近江八幡）でおもてなし 滞在・見物
5月21日 から 5月28日	京都見物
5月29日 から 6月1日	堺（大阪府）見物



ところが、6月2日早朝 本能寺の変 勃発！

6月2日

家康は枚方（大阪府）まで来たところで、本能寺の変の知らせを受け取る

茶屋四郎次郎清延
（ちゃやしろうじろうきよのぶ）

私が、家康様に一大事を知らせました



お家康



私が演じております

俳優の肖像はHNKのHPより

当時、家康に随行していた供廻は、以下の僅か34名

酒井忠次

榊原康政

高木広正

本多信俊

高力清長

酒井重勝

内藤新五郎

永井直勝

三浦おかめ

石川数正

本多正盛

大久保忠隣

阿部正勝

大久保忠佐

多田三吉

都筑亀蔵

永田瀬兵衛

青木長三郎

本多忠勝

石川康通

菅沼定政

牧野康成

渡辺守綱

花井吉高

松平玄成

松下光綱

井伊直政

服部正成

久野宗朝

三宅正次

森川氏俊

鳥居お松

菅沼定利

都筑長三郎

当時、家康に随行していた供廻は、以下の僅か34名

酒井忠次

榊原康政

高木広正

本多信俊

高力清長

酒井重勝

内藤新五郎

永井直勝

三浦おかめ

石川数

大久保

阿部正

大久保

多田三

都筑亀

永田瀬

青木長



特技は宴会芸えびすくい
家臣団のリーダー

さかい・ただつぐ
酒井忠次

大森南朋



私が演じております

井伊直政

服部正成

久野宗朝

三宅正次

森川氏俊

鳥居お松

菅沼定利

都筑長三郎

当時、家康に随行していた供廻は、以下の僅か34名

酒井忠次
榊原康政
高木広正
本多信俊
高力清長
酒井重勝
内藤新五郎
永井直勝
三浦おかめ

石川数正
本多正盛
大久保忠隣
阿部正勝
大久保忠佐
多田三吉
都筑亀蔵
永田瀬兵衛
青木長三郎

本

牧

渡

花

松

松



どんな難問も一刀両断

いしかわ・かずまさ
石川数正

松重豊



私が演じております

当時、家康に随行していた供廻は、以下の僅か34名

酒井
榊原
高木
本多
高力
酒井
内藤
永井
三浦



「ただ勝つ」と名付けられた最強
サムライ

ほんだ・ただかつ
本多忠勝

山田裕貴



私が演じております

本多忠勝
石川康通
菅沼定政
牧野康成
渡辺守綱
花井吉高
松平玄成
松下光綱

井伊直政
服部正成
久野宗朝
三宅正次
森川氏俊
鳥居お松
菅沼定利
都筑長三郎

当時、家康に随行していた供廻は、以下の僅か34名

酒井忠次
榊原康政
高木広正
本多信俊
高力清長
酒井重勝
内藤新五
永井直勝
三浦おか



私が演じております

本多忠勝
定政
野康成
邊守綱
井吉高
公平玄成
下光綱

井伊直政
服部正成
久野宗朝
三宅正次
森川氏俊
鳥居お松
菅沼定利
都筑長三郎

当時、家康に随行していた供廻は、以下の僅か34名

酒井忠次

榊原康政

高木広正

本多信俊

高力清長

酒井重勝

内藤新五郎

永井直勝

三浦おかめ

石川

上

入

阿部

大久

多田

都筑

永田

青木



徳川家臣団の
マイペースな貴公子

さかきばら・やすまさ
榊原康政

杉野遥亮



私が演じております

井伊直政

服部正成

久野宗朝

三宅正次

森川氏俊

鳥居お松

菅沼定利

都筑長三郎

当時、家康に随行していた供廻は、以下の僅か34名

酒井忠次
榊原康政
高木広正
本多信俊
高力清長
酒井重勝
内藤新五郎
永井直勝
三浦おかめ



はっとり・はんぞう まさしげ
服部半蔵 (正成)

やまだたかゆき
[山田孝之]

私が演じております

酒井忠勝
三浦玄成
久野宗朝
三宅正次
森川氏俊
鳥居お松
菅沼定利
都筑長三郎

井伊直政
服部正成
久野宗朝
三宅正次
森川氏俊
鳥居お松
菅沼定利
都筑長三郎

当時、家康に随行していた供廻は、以下の僅か34名

酒井忠次
榊原康政
高木広正
本多信俊
高力清長
酒井重勝
内藤新五郎
永井直勝
三浦おかめ

石川数正
本多正盛
大久保忠隣
阿部正勝
大久保忠佐
多田三吉
都筑亀蔵
永田瀬兵衛
青木長三郎

本多
石川
菅
渡辺
花井
松平
松

大久保忠世の兄



三河で一番の色男
(本人談)

おおくぼ・ただよ
大久保忠世

小手伸也



当時、家康に随行していた供廻は、以下の僅か34名

酒井忠次
榊原康政
高木広正
本多信俊
高力清長
酒井重勝
内藤新五郎
永井直勝
三浦おかめ

石川数正
本多正盛
大久保忠隣
阿部正勝
大久保忠佐
多田三吉
都筑亀蔵
永田瀬兵衛
青木長三郎

本多
石ノ
牧野
渡辺
花井
松平
松下

大久保忠世の息子

その次男が石川忠総

「石川忠総留書」に
伊賀越えて石薬師を
通ったと記述がある
んだ



当時、家康に随行していた供廻は、以下の僅か34名

石川忠総の養父

石川忠総の実父と養父、叔父が家康の伊賀越えに同行した。

彼らから話を聞いてまとめたものが「石川忠総留書」

左

新
郎

本多忠勝
石川康通
菅沼定政
牧野康成
渡辺守綱
花井吉高
松平玄成
松下光綱

井伊直政
服部正成
久野宗朝
三宅正次
森川氏俊
鳥居お松
菅沼定利
都筑長三郎

こんな少人数では、弔い合戦などもってのほかだ

京都方面に向かえば明智軍に簡単に討ち取られてしまうだろう

徳川家康



徳川家康

かと言って、山中などを通して三河まで帰る場合、地侍や土民の一揆勢との遭遇や、落ち武者狩りなどの危険が伴う

海路で紀伊半島をぐるりと回って行くのは、海が荒くて、沈没・遭難してしまうかもしれない

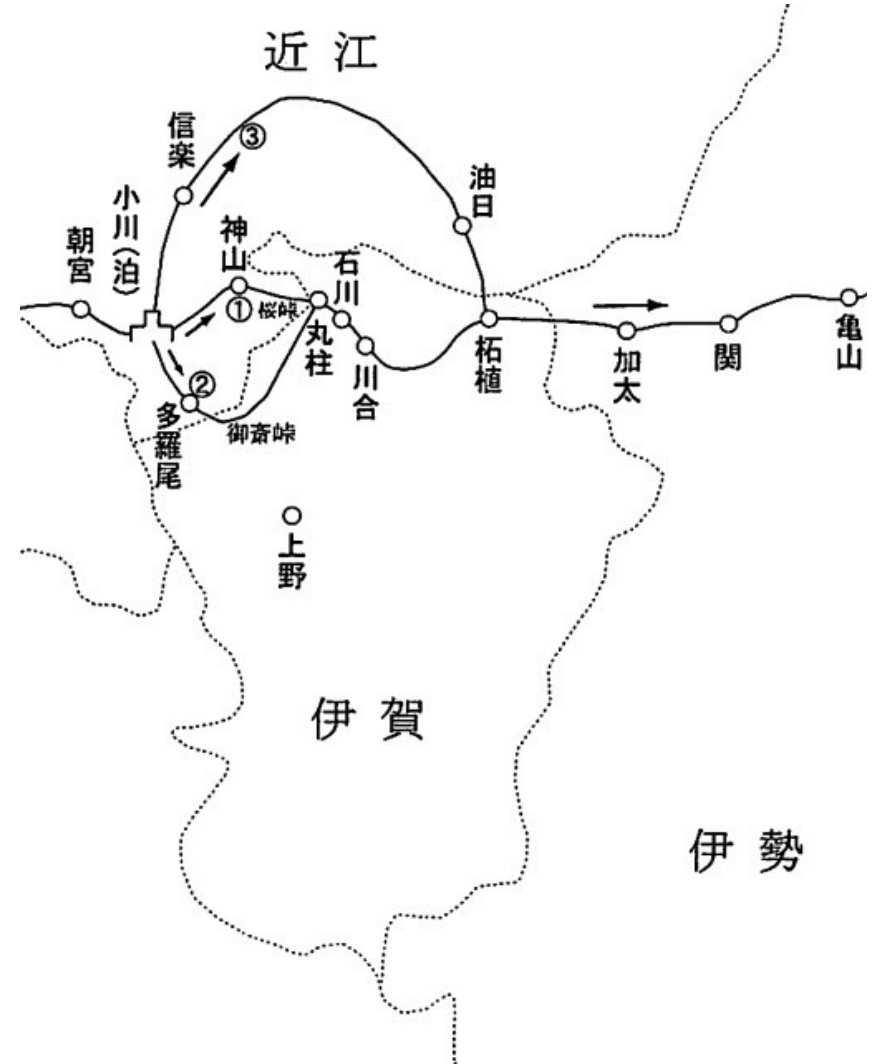
いろいろ検討した結果、京都を通らず、伊賀を越えていくことに・・・

同行者の中に伊賀出身の服部半蔵がおり、甲賀者や半蔵が集めた伊賀者によって助けられて、伊賀越えを果たしたんだ



堺を立って2日後の6月4日に本国の三河に着いた

どのようなルートを通ったのか、諸説ある



いしかわただふさとめがき

石川忠総留書 によるルート



東海道が完成するのは1601年であるが、もとになる道はあった。

その道を使って、家康一行は関から龜山、庄野と通って石薬師にやってきた。

南町橋の上での会話

さて、ここから東に向かって神戸城で織田信孝に助けてもらおうか。それとも北へ、四日市へ向かおうか

神戸城の城主は、四国へ戦いに出かけております。城主のいないお城はあてになりませぬ。



というわけで、一行は采女峠を越えて、四日市へ向かった。
しかし、四日市港は当時は漁港で、大勢を乗せられるような大きな船
はない。そこで、長太へ向かったと言われている。



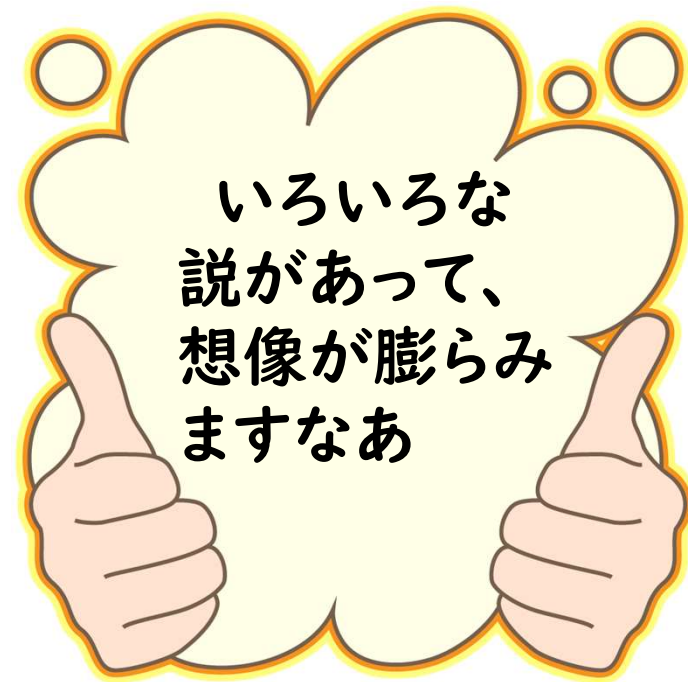
ところで、四日市にも「思案橋」がある。陸路を行こうか、海路で行こうか思案した橋だそうである。結局、海路を選んで長太へ行ったというのが、石川忠総留書によるルートである。

しかし、
四日市も長太も白子も漁港
で、大きな船はなかったので、
桑名まで陸路で行ったのでは
ないでしょうか。



四日市の思案橋研究家

いろいろな
説があって、
想像が膨らみ
ますなあ



南町橋の欄干
2007年当時



徳川家康の思案橋（石薬師南町橋）

天正十年（一五八二）、徳川家康は明智光秀が本能寺の変を起こしたことを知った。そこで一旦三河へ帰ろうと、伊賀越えをして石薬師を通り、四日市に向かったという説がある。

この石薬師南町橋は当時街道の重要な分岐点であった。東に向かって同盟関係にある織田信孝の神戸城で保護してもらおうか、それとも采女の杖つき坂を経て四日市方面に向かおうか。どうしたら安全に三河へたどり着くか。

この逃避行で最も思案した場所の一つがこの南町橋の上だったのではなからうか。後に、「石薬師の思案橋」として伝えられることとなった。

四日市市浜町にも史跡・思案橋がある。ここより海路を進むか陸路を進むかを思案したとされる場所である。四日市を通るには、石薬師思案橋を通過せねばならないわけである。

令和五年二月

石薬師地区明るい

まちづくり推進協議会